



コンシューマ向け製品のBtoB展開で新たな市場を創出

岡山県警察本部が当社の スマートウォッチを導入

事業戦略本部
システムBU
PA営業戦略部

平田 美徳

当社では法人向け製品を幅広く提供しており、運輸業や物流業務などの現場で使用されるハンディターミナルもその一つです。ハンディターミナルの営業活動を行っていく中で、お客さまから作業をする上で手を自由に使いたいというニーズがあると考え、コンシューマ向けに販売していたスマートウォッチを今期からBtoB向けに展開。新しい市場の開拓に取り組んでいます。その一つの事例として、今年4月に岡山県警察本部が導入した当社スマートウォッチについて、事業戦略本部・システムBU PA営業戦略部の小森主税と平田美徳に聞きました。

警察官と本部の双方向の コミュニケーションツールとして導入

岡山県警察本部では、全国に先駆けて2009年からPITシステム (Police Integrated information Tool/警察統合情報システム) を運用してきました。PITシステムとは、警察官と本部のコミュニケーションツールを従来の無線機からPIT端末(専用携帯電話)とPITキー(ブザーユニット)に替えることで、スムーズな情報共有とセキュリティ対策の両立を実現しています。

岡山県警察本部では、このPITシステム端末の老朽化に伴い、新たにPIT端末をスマートフォンに、PITキーをスマートウォッチに更新することにしました。複数の機種を検討

した結果、当社の「PRO TREK Smart WSD-F20AB」がPITキーとして1,800台導入され、4月23日より稼働を開始しています。

「WSD-F20AB」は、コンシューマ向けに販売しているスマートウォッチ「WSD-F20」をベースにした法人向けモデルです。5気圧防水や広範な項目でのタフネス性を示すMIL規格準拠など、警察業務に必要な堅牢性を高いレベルで確保しており、岡山県警察本部からもその点について高い評価をいただいております。

従来のPITキーは、PITキーとPIT端末が一定の距離以上離れると端末の全データを消去するというセキュリティ機能の役割のみを果たしていました。しかし、当社のスマートウォッチは専用のアプリケーションを搭載することで、警察官



事業戦略本部
システムBU
PA営業戦略部
部長
小森 主税



と本部の双方向コミュニケーションを可能にしています。

具体的には、スマートウォッチの特長を活かした、本部からの緊急の電話・メール・110番情報の表示が挙げられます。例えば移動中は、スマートフォンの場合、本部からの連絡に気づきづらいこともありますが、スマートウォッチならば手元に着信が通知されるので、そのような心配はありません。さらに、警察官に非常事態が発生した際には、スマートウォッチからスマートフォンの緊急発信を作動させる機能も備えており、迅速な対応が求められる現場を考慮した仕様になっています。

コンシューマ向け製品で
法人向け製品のノウハウを発揮

BtoB展開では情報の流出を防ぐために、インターネットなどの外部ネットワークに接続しない完全に閉ざされた環境で使えることを求められることが多くあります。この閉ざされた環境を閉域網といいます。一般的には、ネット上からアプリケーションをダウンロードするなど外部接続が前提になっているので閉域網で使えるようにするのは困難です。その点、

カシオは閉域網での使用を多く求められるハンディターミナルのノウハウがありますので、Wear OS by Google搭載であることを最大限活用し、これを実現しました。

顧客のニーズに合わせた専用のアプリケーション開発もそうですが、導入にあたって、多数の機器のセットアップ作業を簡潔に行えるツールを用意したり、納入後のアフターフォローを行ったりすることは、法人向け製品では当然の対応です。コンシューマ向けの製品のみを扱っていると、こうした法人向け製品ならではの対応は難しかったかもしれません。

これは、今回導入していただいた大きな要因であると考えています。

今後は、全国の警察への横展開を図るとともに、警備関係や保守・メンテナンス関係といった当社製品の特長であるタフネス性を活かせる分野を中心に開拓していきたいと考えています。コンシューマ向け製品のBtoB展開は、コンシューマ向けから法人向けまで多彩な製品を扱う当社ならではの取り組みとして今後も注力してまいります。